

LLL210 言語学入門

2年 1,2クォーター

担当教員	皆島 博, Ivan Lombardi, Ph.D.
授業形態	講義
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニング科目
単位数	2
曜日・時限	火曜日・4時限/木曜日・2時限/金曜日・2時限

授業概要

本コースでは、言語研究と言語学の研究領域への導入を行う。目標は、人間のコミュニケーションに使われる言語の記述や分析に用いられる主要な概念とツールに習熟することである。第1部では、言語の能力の説明から始め、一般言語学の各種トピックに焦点を当てる。第2部では歴史言語学、心理言語学、神経言語学、社会言語学、非言語コミュニケーション、書記体系研究などいくつかの言語科学の基本を紹介する。

到達目標

学生は以下を行う：

1. 言語というものを科学的に分解・分析することができる概念として捉える。
2. 言語学およびその周辺領域における重要な用語と概念について基本的知識を獲得する。
3. 言語を記述するためのツールを理解し、それを使って試行する。
4. 言語にまつわる様々な神話について考究し、その実体を暴く。
5. 複数言語の使用者としての自らの経験を顧みる。

教科書・参考資料等

教科書: G.Yule (2014, 5ed), The Study of Language, Cambridge University Press:

978-1-107-65817-2

授業に必要な追加資料を毎週用意する。

授業の方法

このコースは演習形式で行う。毎週担当教員が新しいトピックを導入し、課題の読み物の内容と複数言語話者としての個人の経験を関連付けるように導く。学生に課題の講読資料の内容について積極的に議論し、週ごとのトピックから生じる実践的アクティビティに参加するための準備をしてくること。

成績評価

出席と授業への貢献度が強く求められ、評価の際に考慮される。更に3分野(3つのチャレンジと呼ぶ)での評価を考慮する。

成績

25%	チャレンジ1
25%	チャレンジ2
25%	チャレンジ3
25%	出席とクラスへの貢献度

授業スケジュール

第1週：導入部：言語と言語研究

オリエンテーションと導入：言語の本質と科学的言語研究について。

第2週：言語使用者

人間と生来の言語能力：言語の生成と理解を可能にする脳の機能と認知過程。

第3週：第1言語習得と第2言語習得

言語発達段階の研究。モノリンガルとバイリンガルの言語習得の違い、第2言語習得に関する理論について論じる。

第4週：チャレンジ1：語学とは

第5-6週：音声学と音韻論

言語音の特性を研究する音声学と言語音のパターンを体系的に記述する音韻論を使って試行してみる。

第7週：形態論と語形成

意味の最小単位である形態素について述べる。また、世界のどの言語においても、語形成が形態論規則によってどのように行われているのかも述べる。

第8週：言語の構造：統語論

文はどのような語構成で出来ているのか。統語論とは何か、また統語的要構成素とその関係を記述するために用いられるツールについて学ぶ。

第9週：意味論と意味の探求

意味はどのように構築されているか。言語の意味の特性について、また、語の意味は時間の経過とともにどう変化してゆくのかについて概観する。

第10週：チャレンジ2：言語の分析について

第11週：歴史言語学と言語の変遷

歴史言語学、その研究方法および成果について：語派・語群、言語の起源と進化、言語接触。

第12週：心理言語学と神経言語学

心理言語学と神経言語学で確立された主要な理論とその成果を概観する。発話障害について簡単に説明する。

第13週：社会言語学入門

社会言語学における主要トピック：スピーチコミュニティ、言語異種とその威信、方言、レジスター（言語使用域）、俗語（スラング）。

第14週：非言語コミュニケーション

言語を使わないコミュニケーションを分析する：ボディランゲージ（アイコンタクト、模倣、ジェスチャー）、接触、近接学（プロクシミクス）、服装やアクセサリーの役割、非言語コミュニケーションにおける文化の違い。

第15週：書き言葉：概要

筆記の起源、世界の歴史の中で見られる様々なタイプの表象、語筆記の歴史的発展、書けるようになることの帰結。

第16週：チャレンジ3：言語を科学する

事前・事後学習

- ・予習：参考図書の該当する章を予習してくること（1時間程度）。
- ・復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。